

国分グループ、2025年度の経営結果と2026年度の経営方針

〔I〕2025年度の経営環境と経営動向の回顧

2025年度の経営概況

2025年の我が国経済は、インフレと円安、人手不足が常態化し、原材料・資材・エネルギー・物流コストの高止まりが続く厳しい環境となりました。その一方で、大阪・関西万博とこれに伴う人流の活性化が、観光・外食需要を中心に経済の下支えに寄与しました。消費動向においては「節約」と「ご褒美」のメリハリが定着し、低アルコール・ノンアルコール飲料の浸透も顕著となりました。また、生活者の価値観は、健康・ウェルネスやサステナビリティへの配慮に加え、冷凍・小分け・個食といった利便性、トレーサビリティへの関心が一段と高まっています。

流通業界ではDXが急速に普及し、小売・外食現場でのセルフレジや電子値札の導入、デジタルチラシやリテールメディアの活用が一般化しました。一方、人件費高騰や物流危機の深刻化を受け、リードタイムの見直しや共同配送、取引条件の適正化など、「製・配・販」の枠組みを超えた共創を模索する一年となりました。需給面では、前年の猛暑の影響による米の品薄と高値が家計を圧迫しました。また、気候変動や地政学リスク、政策の不確実性が続く中、サプライチェーン全体の効率化とBCP強化、セキュリティ対策が通年の重要課題となりました。

このような環境下、当社グループは「第11次長計を仕上げる。もう一度ゼロベース、これからを考える」を冠方針に掲げ、価値創造と収益基盤の強化を推進いたしました。具体的には、①第11次長計の完遂、②食の価値創造の実践と循環、③共創圏パートナーとの価値創造活動の加速、④地域共創ビジネスモデルの確立、⑤値上げ対応と卸マージン確保・コスト管理を重点項目とし、DXを軸としたバランスの取れた経営改善を図りました。

社内においては、ナレッジの形式知化や社内SNS、生成AIの日常的な活用を通じて実践知を定着させ、「総マーケティング人材」の底上げを加速し、170名を超える業務変革エバンジェリストが現場のDXを牽引いたしました。また、AI需要予測の展開完了により、発注時間の削減と欠品抑制・在庫最適化を実現し、創出された100名を超える人員を強化事業へシフトいたしました。

事業面では、第11次長計期間の共創案件累計が241件に達しました。大阪・関西万博では「だし屋国分 万博店」を出展し、「だし麺」を通して日本の食文化を世界へ発信いたしました。地域共創では自治体への提案や産学連携による継続案件が年間を通じて積み上がり、地域活性化に寄与しています。

低温事業においては、国分フードクリエイト(株)と国分フレッシュリンク(株)を統合し、国分フレッシュ・フードトランス(株)を発足させることで、低温ビジネスとフレッシュビジネスの融合を加速させました。

海外事業においても、貿易、中国、アセアンの各事業ともに着実に業績を伸ばしております。

以上の通り、第11次長計の総仕上げ、および第12次長計への架け橋となる本年度において、諸施策を着実に遂行いたしました。その結果、5期連続の増収増益を達成し、売上高・利益ともに過去最高を更新いたしました。

各種実行テーマ

1. 流通施策

- ・東京電力ホールディングス㈱と国分グループ本社㈱が福島県産品等の流通促進にむけた包括連携協定を締結 (1月)
- ・タニタの置き社食サービス「タニタカフェ at OFFICE」の展開をサポート (2月)
- ・「国分酒類総合展示会」「国分輸入洋酒展示会」「菓子・おつまみ展示会」を共同開催 (4月)
- ・国分フードクリエイト㈱と国分フレッシュリンク㈱を統合し、国分フレッシュ・フードトランス㈱に社名変更 (5月)
- ・国分首都圏㈱と国分関信越㈱、日本酒需要喚起イベント「酒ハイに会おう夏」を監修 (6月)
- ・㈱テーブルクロスと共創し、訪日外国人向け Web サイト「byFood (バイフード)」で「高付加価値な日本の酒蔵体験」の取り組みを開始 (6月)
- ・大阪・関西万博に出展する ORA 外食パビリオン「宴～UTAGE～」に「だし屋国分 万博店」を協賛出展 (8月)
- ・酒類食品卸㈱エスサーフ[滋賀県大津市]を子会社化 (10月)
- ・「業務用・特殊ルート菓子商談会」を開催 (10月)
- ・訪日外国人向け「高付加価値な酒蔵体験」のトライアルツアーを実施 (11月)
- ・VTuber を起用した食品プロモーション新規事業化に向けた実証実験を実施 (12月)

2. サステナビリティの取り組み

- ・国分西日本㈱、広島市での家庭系廃食油回収リサイクルと SAF 導入促進事業の実施を発表 (4月)
- ・『マンガでわかる 国分グループのサステナビリティって? Vol. 2』を発刊 (10月)
- ・国連 WFP 協会推進「レッドカップキャンペーン」に参加 (12月)

3. 物流施策

- ・国分西日本㈱、三温度帯対応物流拠点「関西総合センター」にて大手量販店向け専用低温物流センターを稼働 (3月)
- ・国分北海道㈱、大型汎用常温物流拠点「札幌ロジスティクスセンター」にて庫内作業の省人化・省力化対策として「ピッキングアシストロボット (PA-AMR)」を導入・稼働 (7月)
- ・ロジストラスト・パートナーズ㈱、子会社のデイリートランス㈱を統合 (10月)

4. DX・情報システム施策

- ・デジタル受注機能「TANOMU」の全社展開を開始 (1月)
- ・AI 物量予測の全社展開を開始 (1月)
- ・外部サービスを活用した PDF 請求書発行を開始 (9月)
- ・IT 基盤強化に向けた全社パソコン入替えが完了 (11月)
- ・生成 AI 月間アクティブユーザーが 3,583 人 (76.3%) となり非日常から日常へ進展 (12月)

5. 海外施策

- ・Commonwealth KOKUBU Logistics Pte. Ltd.が「最優秀コールドチェーンサービスプロバイダー」を 2 年連続受賞 (5月)
- ・米国最大級の日本酒 EC 販売を展開する Tippsy,Inc.へ出資 (7月)
- ・Commonwealth KOKUBU Logistics Pte. Ltd.に㈱商船三井 [東京都港区] が出資 (12月)

6. 商品施策

- ・「トマーティン レガシー」が IWSC ノンヴィンテージ・シングル・モルト スコッチ・ウイスキー部門で最優秀賞を受賞 (1月)
- ・国分首都圏(株)、「青山しまだ監修 肉カレースープ」「レストラン香味屋監修 ナポリタンソース」「千葉がいっぱい! 黒アヒージョパスタソース」「金子半之助監修 江戸前天井のたれ風味ポテトスティック」「あかしコナラカスク 10年」を発売 (2・3・7・8月)
- ・tabete だしとスパイスのトリコ「かつおだしスパイスキーマカレー」「えびだしスパイスカレー」「貝だしスパイスカレー」「いかすみスパイスカレー」を発売 (3・9月)
- ・クリエイト「はちみつアーモンドヨーグルト」「サキホコレ甘酒」を発売 (3月)
- ・スペインワイン「ザ・スパニッシュ・クォーター 赤」「同 白」「同 カヴァブリュット 白」を発売 (3月)
- ・バーボンウイスキー「ネルソンズ・グリーン・ブライヤー テネシー・ウイスキー」「ネルソン・ブラザーズ クラシック・バーボン」「同リザーブ・バーボン」を発売 (3月)
- ・国分西日本(株)、「缶ちいず 大山どりのレモン香るコンフィ」を発売 (4月)
- ・ニュージーランドワイン「キム・クロフォード ソーヴィニオン・ブラン」「同 ピノ・ノワール 赤」を発売 (5月)
- ・バーボンウイスキー「ハイ・ウエスト バーボン」「同 ダブルライ」を発売 (5月)
- ・国分関信越(株)、ノンアルコール飲料「おそ松さん FIZZ ジントニックテイスト」「にしかんないろ野菜カレー」「同 野菜スープ」を発売、KANPAI POTATO「サッポロ クラシック専用」を国分北海道(株)と発売 (5・8・10月)
- ・KING' SHAWAIIAN「オリジナルハワイアンズウィートロール」を国内で販売 (5月)
- ・インディアン・ウイスキー「グランデューク」を発売 (6月)
- ・フランスワイン「ラブレ・ロワ」取り扱い開始を発表 (7月)
- ・国分フレッシュ・フードトランス(株)、「八天堂 北海道粒あんミルク くりーむパン」を発売 (9月)
- ・旭トラストフーズ(株)、「食塩を使わず作ったパン粉」を発売 (9月)
- ・「K&K 缶つま 北海道産いわしとジュレ柚子胡椒風」「同 燻製風」を発売 (9月)
- ・国分東北(株)、「美酒めぐり 東北の酒 6本セット」「東北果実ラ・フランス&さくらんぼサワー」「同山形白桃ハイボール」「K&K 缶つま JAPAN 牛たん炭焼利久監修 牛たん旨辛南蛮味噌煮」を発売 (10・11月)
- ・輸入リキュール「コカレロ ピカンテ」、「コカレロ」小容量ボトル(クラシコ、ヴィーダ、ピカンテ)を発売 (10・12月)
- ・国分北海道(株)、「札幌つけ麺 風来堂監修 濃醇味噌味」「十勝産大豆ミートのボロネーゼ風ソース」「北海道倉島牛乳アイス」「厚岸産灯台つぶとしいたけのジュレ仕立て」「らーめん信玄監修 コク味噌鍋つゆ」「みついし牛キーマカレー」「マルスウイスキー岳樺 十勝ワイン “山幸” カスクフィニッシュ Finished at 駒ヶ岳蒸溜所」など多数発売 (通年)

7. 地域共創活動

- ・国分首都圏(株)、千葉県主催の「黒アヒージョ料理コンテスト 2025」をサポート (2月)
- ・国分首都圏(株)が鎌倉市のフェアトレードタウン認定を目指す取り組み支援をした「鎌倉焙煎珈琲フェアトレードかまくらブレンド」が「ソーシャルプロダクツ・アワード 2025 大賞」「フェアトレード・ジャパン アワード ソーシャルムーブメント部門 優秀賞」を受賞 (3・11月)
- ・新潟酒販(株)と弥彦酒造(株)の女性社員、新潟青陵学園の女子学生、教職員、学園のOGで構成されたプロジェクトチームが造る日本酒「READY!LADY!READY! 海のこぼれ日 純米吟醸」を発売 (4月)
- ・北海道と北海道大学が連携してスタートした「北海道ワインバレー」プロジェクトの推進を支援 (7月)
- ・国分グループと日本郵便・金融機関が共創し、日本郵便 EC モールへの出店を通じて能登復興を支援 (8月)
- ・国分首都圏(株)、「ちばの醤油グルメフェア 2025」のサポートで地域共創活動を拡大 (10・11月)

〔II〕 連結業績

当期の連結業績は、売上高 2 兆 2,431 億 80 百万円、前年比 104.0%となりました。売上高の内訳は、食品 1 兆 4,590 億 98 百万円、前年比 102.9%、酒類 6,839 億 14 百万円、前年比 106.6%、その他 1,001 億 67 百万円、前年比 102.7%となりました。連結経常利益は、295 億 98 百万円、前年比 108.0%、親会社株主に帰属する当期純利益は 193 億 41 百万円、前年比 110.8%となりました。

【 連結損益計算書の要旨 】

(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

(単位:百万円)

科 目	金 額	売上比	前年比
売 上 高	2,243,180	-	104.0%
(食 品)	1,459,098	(65.0%)	102.9%
(酒 類)	683,914	(30.5%)	106.6%
(そ の 他)	100,167	(4.5%)	102.7%
売上総利益	164,188	7.32%	105.5%
販売費及び一般管理費	139,342	6.21%	104.7%
営業利益	24,845	1.11%	110.4%
経常利益	29,598	1.32%	108.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	19,341	0.86%	110.8%

【 連結貸借対照表の要旨 】

(2025年12月31日 現在)

(単位:百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	677,527	流動負債	643,345
現金及び預金	100,423	支払手形及び買掛金他	570,977
受取手形及び売掛金	366,734	短期借入金	16,216
譲渡性預金	3,000	その他	56,151
有価証券	27,016	固定負債	47,666
棚卸資産	77,351	繰延税金負債	29,110
未収収益	80,986	資産除去債務	2,288
預け金	20,676	その他	16,267
その他	1,486		
貸倒引当金	△ 148		
固定資産	271,257	負債合計	691,012
有形固定資産	71,465	純 資 産 の 部	
無形固定資産	11,758	株主資本	182,590
投資その他の資産	188,033	資本金	3,500
投資有価証券	174,964	資本剰余金	-
繰延税金資産	1,091	利益剰余金	179,090
その他	12,389	評価・換算差額等	61,948
貸倒引当金	△ 412	非支配株主持分	13,233
		純 資 産 合 計	257,771
資産合計	948,784	負債及び純資産合計	948,784

【 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 】

(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

(単位:百万円)

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 の期末残高
2025年12月期	17,701	△ 20,023	△ 1,716	103,423

【 販売の状況 】

(1) 部門別売上高明細表

(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日) (単位:百万円)

部 門	売上高	構成比	前年比
加工食品	913,065	40.7%	102.3%
冷 凍	251,408	11.2%	104.3%
冷 菓	59,525	2.7%	98.7%
チルド	173,636	7.7%	104.7%
菓 子	61,463	2.7%	105.5%
食品合計	1,459,098	65.0%	102.9%
酒 類	373,011	16.6%	107.2%
麦 酒	199,621	8.9%	104.3%
ビアテイスト(麦酒除く)	111,281	5.0%	108.6%
酒類合計	683,914	30.5%	106.6%
その他合計	100,167	4.5%	102.7%
合 計	2,243,180	100.0%	104.0%

(2) 酒類の種級別売上高明細表

(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日) (単位:百万円)

種 級	売上高	構成比	前年比
清 酒	45,078	6.6%	97.4%
焼 酎	53,750	7.9%	95.1%
ワイン類	41,382	6.1%	100.2%
ウイスキー類	63,075	9.2%	107.0%
リキュール・スピリッツ他	169,724	24.8%	117.2%
酒 類	373,011	54.5%	107.2%
麦 酒	199,621	29.2%	104.3%
ビアテイスト(麦酒除く)	111,281	16.3%	108.6%
合 計	683,914	100.0%	106.6%

(3) 業態別売上高

(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日) (単位:百万円)

業 態	売上高	構成比	前年比
GMS	196,040	8.7%	104.0%
SM	803,485	35.8%	104.8%
CVS	203,847	9.1%	103.4%
ドラッグストア	174,568	7.8%	100.9%
EC/宅配	110,075	4.9%	110.6%
百貨店	26,805	1.2%	101.2%
一般・業務用酒販店	117,224	5.2%	102.2%
外食ユーザー	114,881	5.1%	105.4%
卸売	357,593	15.9%	102.7%
その他	138,656	6.2%	103.3%
合 計	2,243,180	100.0%	104.0%

【 連結範囲及び持分法の適用に関する事項 】

連結子会社 45社
持分法適用会社 19社

【 エリアカンパニー/カテゴリーカンパニー業績 】

(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

(単位:百万円)

企業名称	売上高	前年比	経常利益	前年比
国分北海道株式会社	105,693	104.5%	1,303	129.4%
国分東北株式会社	120,262	102.5%	1,165	107.9%
国分関信越株式会社	204,690	103.8%	2,288	115.4%
国分首都圏株式会社	384,421	101.9%	7,096	113.0%
国分西日本株式会社	385,838	107.4%	3,992	113.2%
国分九州株式会社	147,769	103.2%	970	98.7%
国分フレッシュ・フードトランス株式会社	93,800	103.6%	1,095	114.4%

〔Ⅲ〕 2026年度の経営方針

本年スタートする第12次長期経営計画では、「食の価値循環プラットフォーム ～より地域へ、さらに世界へ～」をビジョンタイトルに掲げ、社会価値と経済価値の創出を両立・循環させることで、食を通じて持続可能な社会の実現を目指してまいります。

その初年度として「小売りよりも小売り力、メーカーよりもメーカー力」を冠方針として掲げます。「請負人国分」として、お取引先の事業を深く理解し、それぞれの専門領域の主体者であるメーカー・小売業各社を上回る知見と実行力を持つことで課題解決に協働で取り組み、新たな付加価値の創出に取り組んでまいります。その実現に向け、あらゆる営業活動をデータ化し、AIを活用することで、新たな価値創造の基盤となる「食の価値循環プラットフォーム」を構築いたします。また、従業員一人ひとりが「フロンティア人材」として挑戦し続ける組織文化の醸成を目指します。

引き続き、インフレ・円安・人手不足の常態化に加え、高まる地政学的リスクや深刻な気候変動への迅速な対応が求められています。サステナビリティ経営を一層強化し、SDGs ステートメントと新たなサステナビリティスローガン「Social Impact for the Future」のもと、地球環境・地域社会・労働環境など、社会が抱える課題への真摯な取り組みを、グループの持続的成長と連動させて推進してまいります。

第12次長期経営計画を新たな羅針盤とし、全従業員がこれまでの枠を超えた挑戦をすることで、卸売業の枠組みを超えた新たな価値を創出し、ステークホルダーの皆さま、そして社会に還元できるよう、グループ一丸となって邁進してまいります。

◆決算内容・報道・取材に関するお問い合わせ

国分グループ本社(株) 経営企画部 広報課

電話：03-3276-4121

〒103-8241 東京都中央区日本橋 1-1-1

Mail：info01@kpost.kokubu.co.jp